

日本語会話データに見られる 対比談話標識の使用実態

陳 相州

キーワード 日本語対比談話標識、コミュニケーション機能、シフト現象、
「ただ」

1. はじめに

接続詞は二つ以上の語、文節や文などの接続関係を示すものであるが、日常会話では接続機能のみならず談話標識 (discourse markers) としても機能している。談話標識によって話し手は自分の発話意図を聞き手に伝達することができ、聞き手もこれによって最小の労力で話し手の発話意図を推理し理解することができる。例えば、

例1 A : Mary has gone home.

B : (ϕ /After all/Thus/Moreover/However), She was sick.

(Fraser1996 : 186)

Maryがもう家に帰ったというAの発話に対し、Bは何も加えずに彼女が病気であることを伝えられるが、After all/Thus/Moreover/Howeverを用いることによって弁明や結論を出すなどのBの発話意図をより明白にAに伝えるばかりかAもBの発話意図を理解することができる。Fraser (1996) はAfter all、Thus、Moreover、Howeverのようなものを談話標識とし、それについて、“the linguistically encoded clues which signal the speaker's potential communicative intentions (話し手の潜在的発話意図を示す言語コード) (168頁)” と定義する。更にHoweverのような “signaling that the utterance following is either a denial or a contrast of some proposition associated with the preceding discourse (後続する発話が先行発話に関連する何らかの命題に対する否定や対比関係にあることを示す) (187頁)” 場合を特に対比談話標識 (contrastive discourse markers) と呼んでいる。日本語の場合は「でも」、「だけど」、「しかし」など従来、逆接続詞と呼

ばれるものが実会話で対比談話標識として機能していると考えられる。

2. 研究の目的

国立国語研究所（1955）の調査結果によると、「でも」、「だけど」、「しかし」などの対比談話標識は日常会話で「それで」に続き、よく使用されるマーカーであることがわかっている。本研究の考察対象は対比談話標識の中でもっともよく使用される「でも」、「だけど」、「しかし」に絞ることとする。

本研究では、まず「でも」、「だけど」、「しかし」が会話進行上どのような働きを果たし、とりわけ会話の中でしか観察できない対比談話標識ならではの機能を明らかにする。また、実際の会話では例2のように、「でも」、「だけど」、「しかし」などの対比談話標識を交互に使用することはよく観察される現象である。どのような要因で一方の対比談話標識を使用せず、他方の対比談話標識を選択して用いるのかという標識間交互使用の理由解明も本研究の目的である。

例 2

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
370	*	IF12	でも千葉なのね。[↑]
371	*	IF12	うちの母も千葉だから。
372	*	IF11	嘘どこ？。
373	*	IF12	だから松戸。
374	*	IF11	あそっか。
375	*	IF12	だけど、母も移動してんだよ。
376	*	IF11	あそうなの？。

1

3. 分析資料

本研究は日本語対比談話標識の日常使用実態を明らかにするため、自然会話を大量に収録している『BTSによる多言語話し言葉コーパス—日本語会話1』を使用する。また、会話参加者の親疎関係と上下・役割関係に関わる力関係の2変数が話者の対比談話標識の使用にどの程度影響を与えるかを明らかにする

ため、今回分析したのは同年代友人同士の雑談（親）、同年代初対面同士の雑談（疎）及び論文指導（力関係）の3場面（計42組、約840分）である。²表1に3場面の全会話文数の合計を示す。

表1 3場面の全会話における文数

	同年代友人同士の雑談	同年代初対面同士の雑談	論文指導
文数	12482	6155	1109

4. 研究結果と考察

同年代友人同士の雑談、同年代初対面同士の雑談及び論文指導の異なる場面で、日本語対比談話標識の使用状況は同じか否かを明らかにするため、各場面の全会話文数をもとに「でも」、「だけど」、「しかし」の使用頻度と割合³を調べた。表2はその結果である。

表2 3場面の会話における対比談話標識の使用頻度と割合

場面 種類	同年代友人同士		同年代初対面同士		論文指導	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
でも	592	4.74%	272	4.42%	26	2.34%
だけど	25	0.20%	3	0.05%	0	0.00%
しかし	2	0.02%	0	0.00%	4	0.36%

岩澤（1985）の調査では、談話のデータに「でも」が中心に使用されており、「でも」は談話場面における逆接続詞の基調（中心に使用するもの）⁴であると論じている。表2に見られるように、対比談話標識はすべてを満遍なく均等に使用しているわけではないことが明らかになった。各場面の親疎関係と力関係の設定が異なるにもかかわらず、「でも」の使用率が「だけど」と「しかし」より遥かに高く、岩澤（1985）の主張と同様に「でも」は対比談話標識の基調となるものであると考えられる。

以下では日本語対比談話標識のコミュニケーション機能、及び「でも」を基調とする日本語対比談話標識の使用が「だけど」と「しかし」へシフトする現象を分析する。

4. 1. 日本語対比談話標識のコミュニケーション機能

日本語対比談話標識のコミュニケーション機能は以下に述べる対立予告、話題移行、情報追加の3つにまとめられると考えられる。3場面の会話データを考察したところ、「でも」、「だけど」、「しかし」の3つの対比談話標識はすべてが対立予告、話題移行、情報追加の3つの機能を受け持ちあっていることがわかった。ここで注目しておきたいのは、谷崎(1994)とメイナード(2004)が指摘したように、談話標識はコミュニケーション上同時に複数の機能を果たしていることが多いため、3つの機能をきれいに切り離すことができないということである。以下、日本語対比談話標識のコミュニケーション機能に関する説明は対比談話標識の使用基調である「でも」をもって進めていく。

4. 1. 1. 対立予告

「でも」、「だけど」、「しかし」は接続詞の研究において逆接の接続詞として位置付けられている。永野(1959:86)は「逆接」の定義について、「前の事がらとそぐわない事、つりあわない事、反対の事、などが次にくることを表すもの。または、前とあととを対立させる意味を表すものもある」と説明している。

談話レベルにおいても、「でも」、「だけど」、「しかし」の対比談話標識を使用することによって、先行発話(A)と異なる事柄や事実(非A)を提示し、対立⁵関係を表すことができる。「でも」、「だけど」、「しかし」を用いて先行発話との対立的な関係を予告するのは対比談話標識の対立予告という機能である。

例 3

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
461	*	F01]] <でも> >、あれ、ただお化けが出るって噂だったよね。
462	*	F02	うん。
463	*	F02	ま、でも、お化けは<出なかった> < 。

例3は「でも」が導いた事実はF01が提供する情報と食い違ったため、先行するF01の発話と後続するF02の発話に、「でも」を用いて両発話の対立を予告するものである。例3のようにA(お化けが出るという噂)と非A(お化けが出なかった)がはっきりと対立する典型的な表現は岩澤(1985)が指摘したように、実際には少なく、会話参加者の推論と判断に頼り間接的に成り立たせることがむしろ多い。

例 4

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
510	*	F05	あーでも、いいな、これ。
511	*	F05	録音できるやつ、私も欲しい。
512	*	F06	私も欲しいけど。
513	*	F05	でも、持ってなかった？。
514	*	F06	いただいたの。
515	*	F05	いただいたの？。[驚いたように]
516	*	F06	いただいたの、あれ。
517	*	F06	録音はできない。

例 4 は親しい女性同年代友人同士の会話であるが、F05は録音できるものがほしいと打ち明けたあと、F06も同じ願望を示した。しかし、F06が既に録音できるものを持っていると認識しているF05にとっては思いがけない発言であるため、「でも」を用いてA（F06：私も欲しいけど→F06が録音できるものを所持していない）と非A（F05：持ってなかった？→F06が録音できるものを所持している）の関係を結び、対立的な関係を間接的に成立させた。

4. 1. 2. 話題移行

上述したように、対比談話標識が連結したAと非Aの間に明確な対立関係が示されていることは実会話で少なく、会話参加者の判断に任される部分がむしろ大きい。岩澤（1985）が述べたように、その部分がさらに増大し、逆接関係が曖昧化するにつれ、対比談話標識の逆接性が薄くなる。これは対比談話標識の話題移行という機能に至る経緯と考えられる。

話題移行という機能は、話題を移行させるという目的で対比談話標識を使用する場合である。対立予告とは異なり、後続発話と先行発話の対立関係を予告することはなく、単に話題を移行するための標識として機能するものと言えよう。話題移行という機能は更に以下の「話題発展」と「話題回帰」に細かく分けることができる。

・ 話題発展

この用法は諸先行研究が論じた展開用法（岩澤1985、クワンチャイ1999、など）の概念にはほぼ相当する。つまり、例5のように先行部分との間に明確な逆接・対比がなく、単に時間の経過を追って今の話題をさらに発展させるもので

ある。岩澤（1985）とクワンチャイ（1999）によると、この用法は「でも」の会話使用の中で最もよく使われている用法でもある。

例 5

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
502	*	F12	え、寮ってさ（そう、うん）、寮ってご飯は出なかったの？。
503	*	F11	や、出る、出る。
504	*	F11	あのねー、朝と一晩はちゃんと出てたよ。
505	*	F12	うーん。
506	*	F11	昼は学校の食堂でって。
507	*	F12	あー、そっかそっか。
508	*	F11	うーん。
509	*	F11	でもねー、なんか、寮のしょくーじ「食事」って、やっぱりこう、なんだろう、とりあえず大量生産じゃん。
510	*	F12	うーん、うん。
511	*	F11	だから、手間をかけらんないしー（うん）、でもー、カロリーとかー（うん）、栄養価とかをがんばって考えないといけないし（うん）みたいな（うんうん）感じで。

上の例はF11が自分の中学校の寮生活について語る会話である。「寮ってご飯は出なかったの」というF12が抱える質問に端を発して話題は“寮の食事”に移った。この例でF11は「でも」を用いて先行発話であるA（F12：あー、そっかそっか→F11が説明した寮の給食システムを理解した）というF12の発言に対して非Aの内容を立てたよりも、今現在の“寮の食事”という話題をさらに“寮の食事に関する詳しいこと”へ進めたという解釈がより適当であると考えられる。

・ 話題回帰

例6は親しい女性同年代友人同士が雑談の中で卒業旅行を論じた会話部分である。F01とF02はまず旅行地を韓国にするという話をし、それから「人名19」に言及したことで話題も更にアメリカの方へ進んでいった。最後に、F01は「でも」を使って話題を再び韓国の話に戻した。「でも」を用いて元の話題に戻したのはこの話題回帰の機能である。

例 6

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
676	*	F02	ちやう、ちやう、とりあえず卒業旅行に行こうよー。
677	*	F01	あ、そうだ、そうだ。
678	*	F01	あたし韓国行きたいとか。
679	*	F02	あ、行く？<笑いながら><笑い>。
680	*	F01	韓国いこっか？。[この間、F02は笑っている]
中略			
696	*	F01	「人名19」ってなに [↑]、どこにいんの？。
697	*	F01	アメリカ？。
中略			
710	*	F01	安そうだよね。
711	*	F02	うん。
712	*	F02	全然<行ける> < 。
713	*	F01	<あ、 <u>でも</u> > > 韓国で焼肉が食いたい。
714	*	F02	あ、確かに。

例 6 では「でも」が導いた「韓国で焼肉が食いたい」という内容は先行する A (全然行ける→アメリカに行ける) という F02 の発話に非 A の対立関係を立えたものではなく、アメリカの話題をさらに進めていったものでもない。「でも」の導く話題は直前の話題と一貫性がないように見えるため、諸先行研究 (岩澤1985、クワンチャイ1999、など) がこの用法を「転換用法」と呼んでいる。対比談話標識が話題の転換に使われる特色について、岩澤 (1985) は話の中断感を与えず、話題の転換をソフトに運べる利点があると述べている。

しかしながら、この用法が導入される話題は浜田 (1995) が説明した通り、「先行文脈と無関係なまったく新しいものではなく、会話の参加者の共有知識に何らかの形で導入済みでなければならない (203頁)」。すなわち、話題回帰という用法が導入される話題は既出の先行話題や話し手と聞き手の共有知識に存在するものでなければなるまい。会話の参加者の共有知識に存在しない、あるいは本筋ではない話題を再度持ち出す場合には、稗田 (2003) は『「ところで」や「話は戻るけど」「さっきの話だけど」といった別の談話標識が必要となるのではないか (201頁)』と説明した。

4. 1. 3. 情報追加

情報追加という機能は、話題移行と同様に対比談話標識の本来所持している逆接性が希薄したため生じたものである。話題移行と異なるのは、用いられた位置からいうと、話題を移行するというより、むしろ自分が提出した部分の内容を自ら補ったり、その他の条件や例外などを述べたりするものである。岩澤（1985）によると、この用法は補足型接続詞と呼ばれる「ただし・ただ・もっとも」などと置き換えが可能である。

例 7

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
518	*	F11	朝はー、なんか、パンとご飯と選べてたのね。
519	*	F12	うん。
520	*	F11	で、なんか、ご飯食の人は、味噌汁お替り自由みたいな感じで。
521	*	F12	へー。
522	*	F11	パン食の人はー、パンお替り自由みたいな感じで（ほんほんほん）、やってー。
523	*	F11	朝はバイキングっぽかったんだけど=。
524	*	F11	= <u>でも</u> ねー、すごい品数が少ないの。
525	*	F12	あー。

例 7 は F 11 が F 12 に寮の朝食を説明する会話である。F 11 は寮が提供する朝食について、バイキングっぽかったんだと最後に総括したが、説明はここで終わると見なすこともできると思われる。その後で使用した「でも」の働きは先行発話との対立関係を予告したり話題を移行したりするより、F 11 が説明した寮の朝食に関する内容を補足するものであると考えられる。

4. 2. 日本語対比談話標識間のシフト現象

上述したように、「でも」は日本語対比談話標識の基調であると思われる。会話を進行する途中に対比談話標識を使用する箇所には「でも」ではなくあえて「だけど」や「しかし」などのほかの対比談話標識を選択して用いることは有標的な行動と見なしてもよいであろう。「だけど」または「しかし」へシフトしてそれらを用いた発話は全体の会話にいかなる効果があるのかを以下で説明する。

4. 2. 1. 談話標識「だけど」へのシフト

表2に見られるように、談話標識「だけど」は同年代友人同士の雑談という場面で多く使用されている一方、同年代初対面同士の雑談という場面ではめったに使用されず、更に論文指導の場面では一例も用いられなかったことがわかる。したがって、談話標識「だけど」へのシフトは会話場面の親疎関係と力関係に強く関わっており、心的負担が少ない親しい同年代友人同士の場面に現れやすいと言えよう。形式的には、談話標識「だけど」の前後に隣接した発話に、例8と例9のように「そうそう」、「～だよね」などの共感を示す発話形式が現れていることが特徴である。また、「だけど」が導く発話内容は例9「だけどねー、できないんだよねー」のように遺憾や不満などの心的態度を表すものよく見られる。

例8

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
389	*	F20	／少し間／「人名1」の紹介みたいな感じだった。
390	*	F19	そうそうそうそう。
391-1	／	F20	だけどさ、なんか、前さほら、私、中国人の知り合いの人とことか(うんうんうんうん)行ったりしたからさ、なんかも、「人名2」君と「人名1」と一、「人名3」と一、
392	*	F19	<そうそうそうそう> < 。

例9

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
221	*	F05	やっぱ、それくらいあった方がいいよね(うん)、<できないんだったら> < 。
222	*	F06	<だか、2回> > やりたいってみんな言ってるよ。
223	*	F05	そう<だよね> < 。
224	*	F06	<うーん> > 。
225	*	F06	だけどねー、できないんだよねー。
226	*	F05	わたし、なんか、もっと、1週間とか2週間とか<ずーっとやるのかと思った> < 。

「だけど」の出現が「そうそう」や「～だよね」などの共感を示す発話形式に伴いやすいことからすると、会話進行の途中に「でも」を基盤とする対比談話標識の使用を「だけど」へシフトし、「だけど」を用いた発話行為はポジティ

ブ・ポライトネス・ストラテジー (positive politeness strategy) であると考えられる。ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとは相手に親しみや一体感を示し、自分が相手と共通の基盤に立っていることを表すものである。

4. 2. 2. 談話標識「しかし」へのシフト

表2に見られるとおり、3場面の会話データの中で「しかし」の使用が観察できたのは同年代友人同士の雑談と論文指導の2場面のみである。また、今回分析として利用した会話データの中では「しかし」を用いた用例の数は多くないが、「しかし」の使用割合の観点からいって、論文指導場面は同年代友人同士の雑談場面の13倍で、3場面でもっとも多く使用する場面と言えよう。したがって、談話標識「しかし」はフォーマルな場面で主に用いられ、真剣な話を繋ぐ傾向があると考えられる。下の例の「しかし」はJTM06 (教師) が学生の研究についてコメントする会話で現れるものである。

例10

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
11	*	JTM06	<=で> > 、それは、あの、もっと古く、あの芥川竜之介『神々の微笑』という作品があって、その日本というのは、結局何でも取り込んでしまう (はい)、ん、仏教も、え、儒教も、キリスト教も、あらゆる科学技術も取り込んでしまう=。
12	*	JTM06	=しかし、日本に取り込まれた瞬間、それすべて、日本のものに、こう作り変えられて (はい) しまう、そういった、あのことを、その『神々の微笑』という短編の中で、あの、登場人物に言わせていますよね。

「しかし」は例10のように真面目な話で用いられることが多いが、これを親しい間柄での会話で用いることにより、違和感から生じる面白味のある言い方になることも例11のような同年代友人同士の雑談の場面で観察された。

例11

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
445	*	F16	雨天時はさー、時間遅らそう。[↑]
446	*	F16	<u>しかし</u> 、遅刻厳禁ねく笑いながら。
447	*	F15	え。

4. 2. 3. 対比談話標識の代替としての「ただ」の使用

論文指導の場面では対比談話標識の使用率がもっとも低いことが表2から窺われる。対比談話標識の低い使用率の原因を探求した結果、論文指導の場面では対比談話標識のかわりに「ただ」が多用されることがわかる。下の表3は各場面の「ただ」の使用頻度と割合である。

表3 3場面の会話における「ただ」の使用頻度と割合

場面 種類	同年代友人同士		同年代初対面同士		論文指導	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
ただ	5	0.04%	9	0.15%	17	1.53%

談話標識「だけど」を用いた発話行為は前述したようにポジティブ・ボライトネス・ストラテジーであるため、ほかの2つの場面より心理的負担が少ないと考えられる同年代友人同士の場面で現れやすいと考えられる。一方、「だけど」の使用状況と異なり、「ただ」の使用は表3に示したように、逆に同年代初対面同士と論文指導の場面で多く、特に論文指導の場面での使用割合は3場面でもっとも高いことがわかる。更に、力関係が会話中の談話標識の選択にいかなる影響を与えるかを明らかにするため、論文指導場面の教師と学生の使用状況を取り上げて分析した。

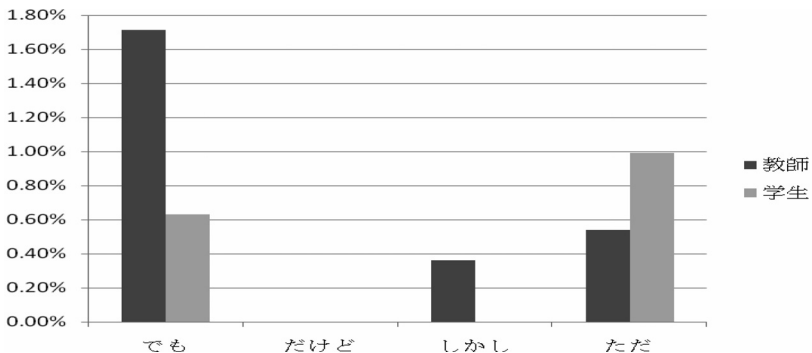


図1 教師と学生の対比談話標識及び「ただ」の使用割合

図1に見られるように、対比談話標識「でも」と「しかし」の使用は教師に偏っているのに対し、学生は「でも」、「だけど」、「しかし」のような対比談話

標識のかわりに「ただ」を比較的多く使用することがわかる。以下で論文指導の場面、特に学生の方は対比談話標識より「ただ」を多く用いる理由を説明する。

4. 1. 3. のところで説明したように、対比談話標識の情報追加という機能は、既出の部分の内容を制限または補足するものであるため、「ただし・ただ・もっとも」などと置き換えが可能である。しかし、同じ情報追加という機能を有するとはいえ、対比談話標識と「ただ」は使用上に差異がある。

対比談話標識の使用は先行部分に反する内容を提示するという性質があり、強調したい発話の重点は後続発話にあると考えられる。一方、「ただ」のようないわゆる補足の接続詞は飛田・浅田(1994)が論じたように、先行部分の内容に対して後続部分でその成立条件、制限や関連情報などを付け加えるものであり、発話の重点は後続発話ではなくあくまで先行発話にある。川越(2003)によると、会話レベルにおいて「ただ」の使用は相手に押し付けがましく聞こえないようにするためにわざと重点を置いていないような「見せかけの重点はずし」の機能を持ち、話し手が自分の発話に関して<聞き手配慮>をする必要があると判断するときに使われる傾向がある。<聞き手配慮>とは、聞き手の立場や心情に配慮し、言いにくいことは婉曲に言う、あからさまに反論したり問題点を指摘したりして相手の気分を害さないようにするコミュニケーション上のストラテジーであり、Brown & Levinson(1987)のポライトネス理論における「ネガティブ・ポライトネス」にほぼ相当する(川越2003)。つまり、情報追加の機能として、「ただ」を用いる発話行為は対人関係を円滑にするネガティブ・ポライトネス・ストラテジー(negative politeness strategy)に属し、相手の感情を配慮して自分の発話を和らげる効果があると考えられる。

教師と学生のような力関係が鮮明になった論文指導の場面では、お互いの立場を尊重して心情を配慮せざるを得ないときが多いため、「ただ」を用いる機会が多いと考えられる。特に、目下の者である学生にとっては自分の発言に更なる注意を払わないわけにはいかず、対比談話標識より「ただ」が多く用いられたことが観察された。以下で「ただ」の使用状況を「自分の発話に対する補足」の場合と「相手の発話に対する補足」の場合に分けて説明する。

・「自分の発話に対する補足」

対比談話標識の場合は補足内容を強調する響きがあるのに対し、「ただ」の場合は見せかけの重点はずしという特質があるため、補足内容である自分の意見を控えめに主張する効果があると考えられる。

例12

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
28-2	*	JSM01	あの、これ自体は、もう元からある、ポーランド語の元からある言葉なんですけど。
30	*	JTM07	はい。
31	*	JSM01	だから、その『Dunaj』の論文で、それがちょうど扱われてて、『Dunaj』はこの"kobiety biznesu"という例は出してなかったんですけど、この下にあげた"biznesmenka、biznes woman、kobieta interesu"という3、3つのかたちがあるというふうに挙げてるんですね。
32	*	JTM07	ん、ん、ん。
33	*	JSM01	ただ、"kobiety in、biznesu"というのはあげてなかったんですけど。
34	*	JTM07	なる<ほど> < 。

例12では、JSM01（学生）はJTM07（教師）に"kobiety biznesu"という言葉に関わる問題を説明する。JSM01はまずこの問題も扱われている『Dunaj』という論文を紹介し、それからその論文には"kobiety in、biznesu"という例が挙げられていなかったという情報を自ら補足した。ここで「ただ」を使用することによって、JSM01の補足内容を婉曲に伝える効果があると思われる。

・「相手の発話に対する補足」

川越（2003）は相手の発話に対する「ただ」の使用について、次のように述べている。

相手の発話の内容に対して自分の意見を言うとき、「しかし」ならばはっきりと反論を示すことになるが、「ただ」なら相手の発話内容を一応賛意を示しながら、意見の相違点や問題点を控えめに主張することができる。これは、聞き手が気分を害さないようにと配慮をしているものである。

（川越2003：86）

例13

発話文番号	発話文終了	話者	発話内容
32	*	JTM04	<でも> {>}、そ、だからー、もちろん全部調査するのではなくて(はい)「JSF04姓」さんのわかる範囲で見ていて、あ、どうも間違いが多いんじゃないかと思えば、やっぱり、さい、再調査せざるを得ないですよ。
33	*	JSF04	そうですね、ただ「作家4名」さんのものは、わたしが読んだ限りでは、ま、間違ってるかどうか分からない(ん)ということもあるんですが、(後略)

例13は、JTM04（教師）がJSF04（学生）に研究の方法と態度について語る例である。JSF04はJTM04の話聞いた後、まず「そうですね」という緩和語句でターンを受け取り、それから「ただ」を用いて自分の考えや意見を控えめに述べた。

以上のように、「ただ」を用いた発話行為は見せかけの重点はずしという特質があるため、自分の意見を補足したり相手の発話に対する自分の考えを述べたりするとき柔らかく聞こえ、会話全体の進行をスムーズにする効果があることが示された。

5. まとめと今後の課題

以上の調査内容を簡単にまとめると、以下の通りである。

- ・対比談話標識のコミュニケーション上の機能は「対立予告」、「話題移行」、「情報追加」の3つにまとめられる。
- ・談話標識「でも」は日常会話でもっとも頻繁に用いられる対比談話標識であり、対比談話標識の使用基調でもある。会話の途中で「だけど」や「しかし」などのほかの対比談話標識へシフトして用いることは有標的な行動であると考えられる。
- ・談話標識「しかし」の使用割合がもっとも高いのは論文指導の場面であることから、談話標識「しかし」へのシフトはフォーマルな場面で主に生じ、真剣な話を繋ぐ傾向があると考えられる。親しい間柄での会話であえて「しかし」を使用することにより、違和感から生じる面白味のある言い方になることも観察された。

- ・ 談話標識「だけど」の使用は仲間意識を築く親近感促進剤と考えられ、同年代友人同士の場面で「だけど」にシフトする現象はしばしば見られる。それに対し、心理的負担が大きいと考えられるほかの2つの場面、特に論文指導の場面では、対比談話標識のかわりに「ただ」が多く用いられることが特徴である。それは、「だけど」を用いた発話行為はポジティブ・ポライトネス・ストラテジーであるのに対し、「ただ」を用いた発話行為は相手の感情を配慮して自分の発話を和らげるネガティブ・ポライトネス・ストラテジーであるためであると考えられる。

今回の調査は『BTSによる多言語話し言葉コーパス—日本語会話1』に基づき、日本語の対比談話標識に関する分析であるが、今後は調査範囲を中国語の対比談話標識にまで広げ、中国語との対照分析を通して対比談話標識の普遍性と個別言語における特殊性を探求していきたいと考えている。

注

- 1 例文の表記方法と記号については宇佐美（2003）を参照されたい。
- 2 同年代友人同士：10代後半から20代半ばの女子学生、21組。同年代初対面同士：20代女子学生、11組。論文指導場面：教師（男性9名、女性1名）と生徒（男性3名、女性7名）、10組。
- 3 （各対比談話標識がつく発話文の数）÷各場面の全会話文数
- 4 岩澤（1985）によると、基調となる接続詞は1つであり、2つ以上の語を基調にする場合は少ない。
- 5 林（2001：283）は対立の定義について、「基本的に先行の文脈（発話）を前提にし、後続発話が先行発話の情報から想定・期待されるイメージや解釈・評価・結論を否定する、あるいは比較することである」と述べている。本研究はこの定義を採用する。

引用文献

- 岩澤治美（1985）「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56、39-50。
宇佐美まゆみ（2003）「改訂版：基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese:BTSJ）」『多文化共生社会における異文化コミュニケー

- シオン教育のための基礎的研究』平成13-14年度 科学研究費補助金 基盤研究C (2) (代表研究者:宇佐美まゆみ) 研究成果報告書、4-21.
- 宇佐美まゆみ監修(2005)『BTSによる多言語話し言葉コーパス-日本語会話1』東京外国語大学大学院地域文化研究科21世紀COEプロジェクト「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」
- 川越菜穂子(2003)「補足の接続詞「ただ」「ただし」について-〈聞き手配慮〉を使用条件にした分析-」『人間文化学部研究年報』5、82-101.
- クワンチャイ・セークー(1999)「会話における接続詞の「でも」について」『東京外国語大学日本研究教育年報』3、21-42.
- 国立国語研究所(1955)『談話語の実態』東京:国立国語研究所
- 谷崎和代(1994)「談話標識についての一考察-「だから」を中心に」『大阪大学言語文化学』3、79-93.
- 飛田良文・浅田秀子(1994)『現代副詞用法辞典』東京堂出版
- 永野賢(1959)『学校文法文章論』朝倉書店
- 浜田麻里(1995)「トコロガとシカシー逆接続語と談話の類型」『世界の日本語教育』5、193-207.
- 稗田三枝(2003)「会話の展開と談話標識-談話標識「でも」に焦点を当てて」『日本語・日本文化研究』13、193-202.
- メイナード・K・泉子(2004)『談話言語学』くろしお出版
- 林淑璋(2001)「台湾華語会話における転折連詞に関する一考察-「可是」と「但是」を手がかりに」『言語情報科学研究』6、283-303.
- Brown, P. and Levinson, S.C. 1987. *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge:University Press.
- Fraser, B. 1996. " Pragmatic Markers." *Pragmatics* 6 :1,167-190.